

図4. 1 中川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表 4. 1 近年の水質の状況

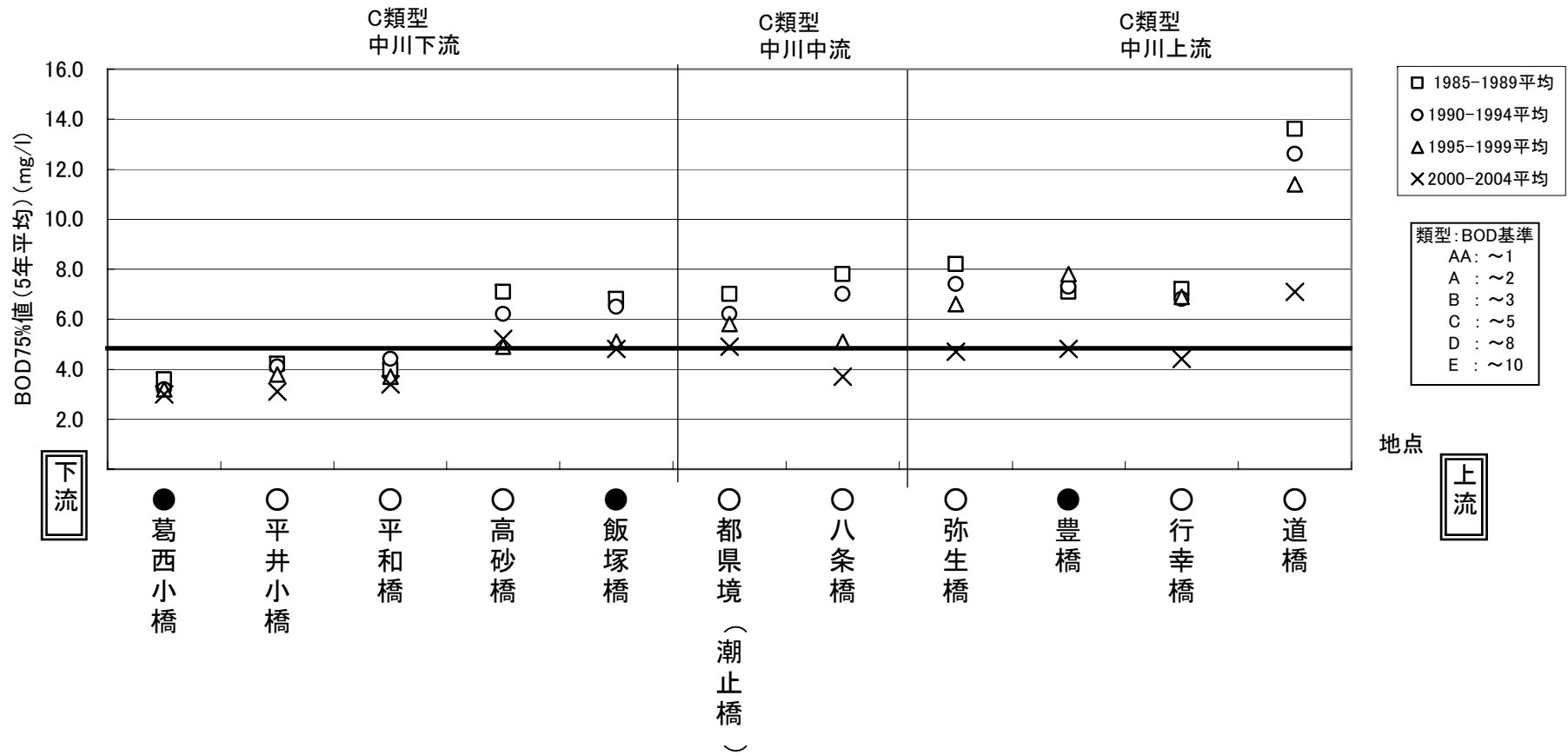
近年の水質状況(中川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
河川	中川上流	C	豊橋	H15	1.7	8.0	3.6	4.1	5	6.8	7.7	6.0~8.5	5.0	11.0	6.8	5	5	49	25	50	—	—	—	—
				H16	1.5	7.0	3.1	3.7		6.9	7.5		4.2	10.0	6.4		9	48	28		—	—	—	
				H17	1.5	7.2	4.0	5.7		6.9	7.7		4.3	10.0	6.6		6	74	29		—	—	—	
	中川中流	C	八条橋	H15	1.5	7.9	3.5	3.6	5	7.1	7.6	6.0~8.5	5.6	10.0	7.5	5	4	160	23	50	—	—	—	—
				H16	1.6	8.4	3.5	3.4		7.1	7.5		5.3	11.0	7.6		5	67	20		—	—	—	
				H17	1.6	8.5	3.3	4.3		7.1	7.8		5.7	12.0	7.5		4	79	21		—	—	—	
	中川下流	C	飯塚橋	H15	2.2	9.7	4.7	5.7	5	7.1	7.6	6.0~8.5	5.1	10.0	7.2	5	6	48	22	50	—	—	—	—
				H16	2.6	11.0	4.8	4.6		7.1	7.4		5.5	9.4	7.1		10	55	23		—	—	—	
				H17	2.1	11.0	4.6	5.0		7.1	7.7		5.5	10.0	7.1		8	48	20		—	—	—	
			葛西小橋	H15	1.4	2.8	2.1	2.4		7.2	8.0		4.0	8.1	5.9		3	25	12		—	—	—	
				H16	1.1	5.4	2.7	3.2		7.1	8.3		3.8	8.6	6.2		6	85	29		—	—	—	
				H17	1.2	3.3	2.2	2.3		7.0	8.3		4.0	11.0	7.0		6	34	13		—	—	—	

出典: 公共用水域の水質測定結果

©公共用水域の水質測定結果(平成15~17年度)

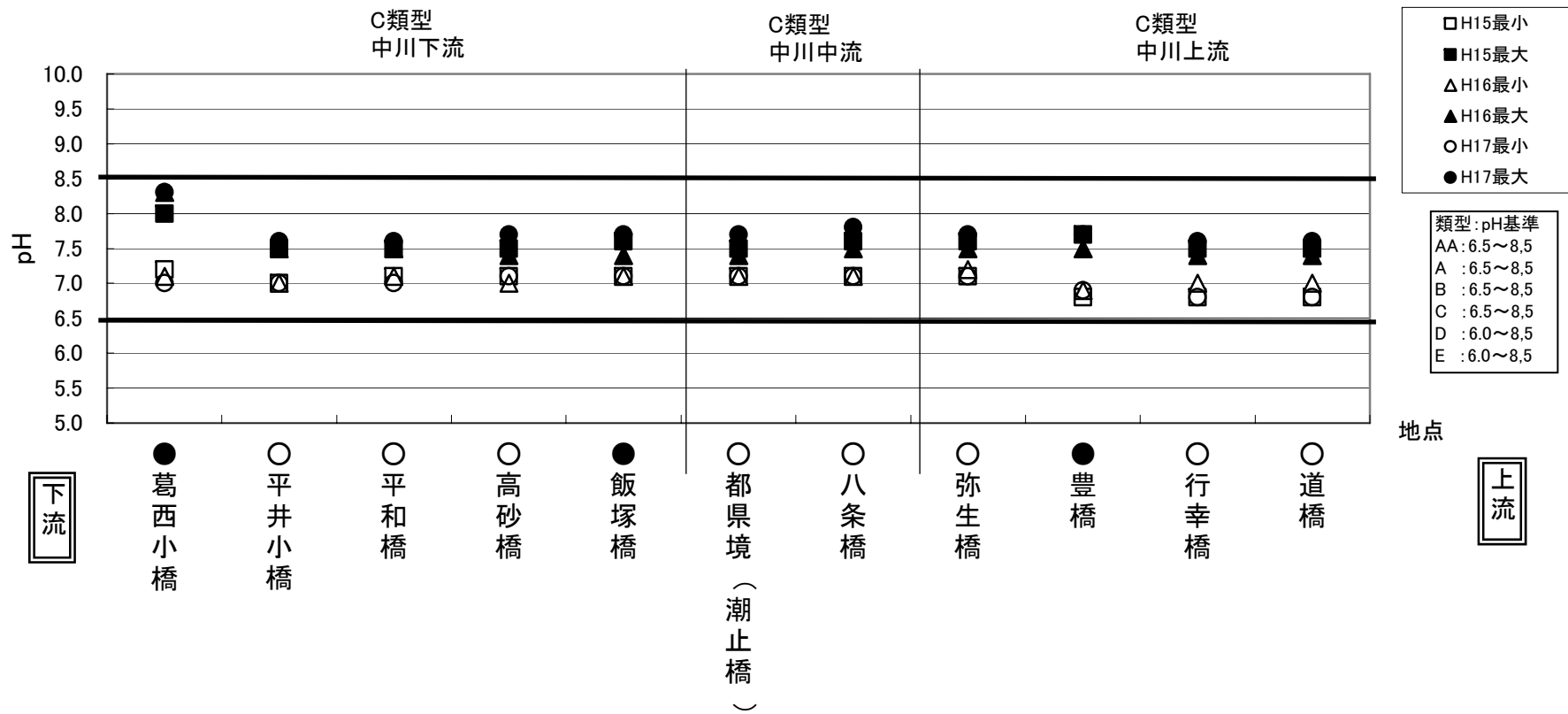
水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県・水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については国土交通省地方整備局によって実施される。原則、河川は表層(水深の2割程度)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層・中層(必要に応じて下層)の測定結果である。



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

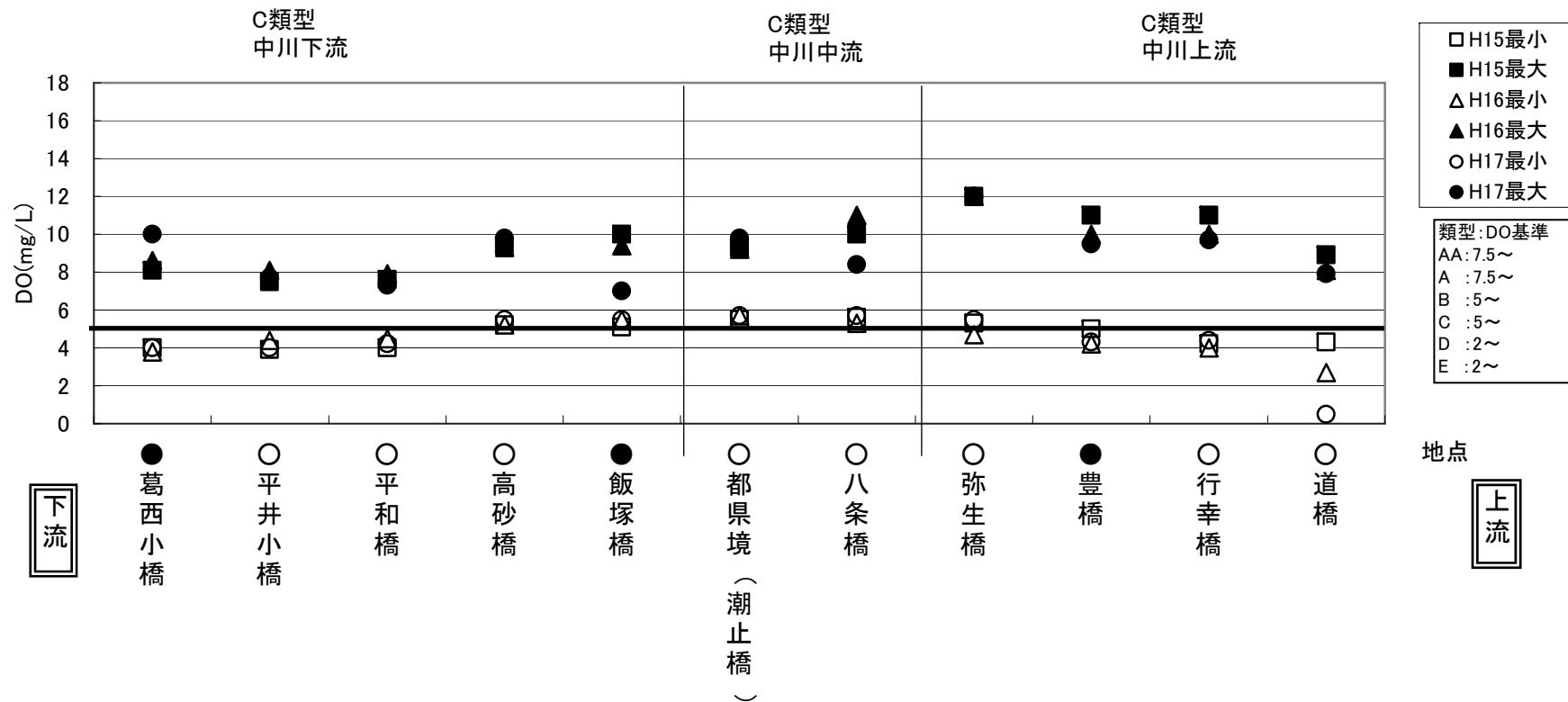
図4. 2 BOD75%値の水質縦断分布



地点: 環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典: 公共用水域の水質測定結果

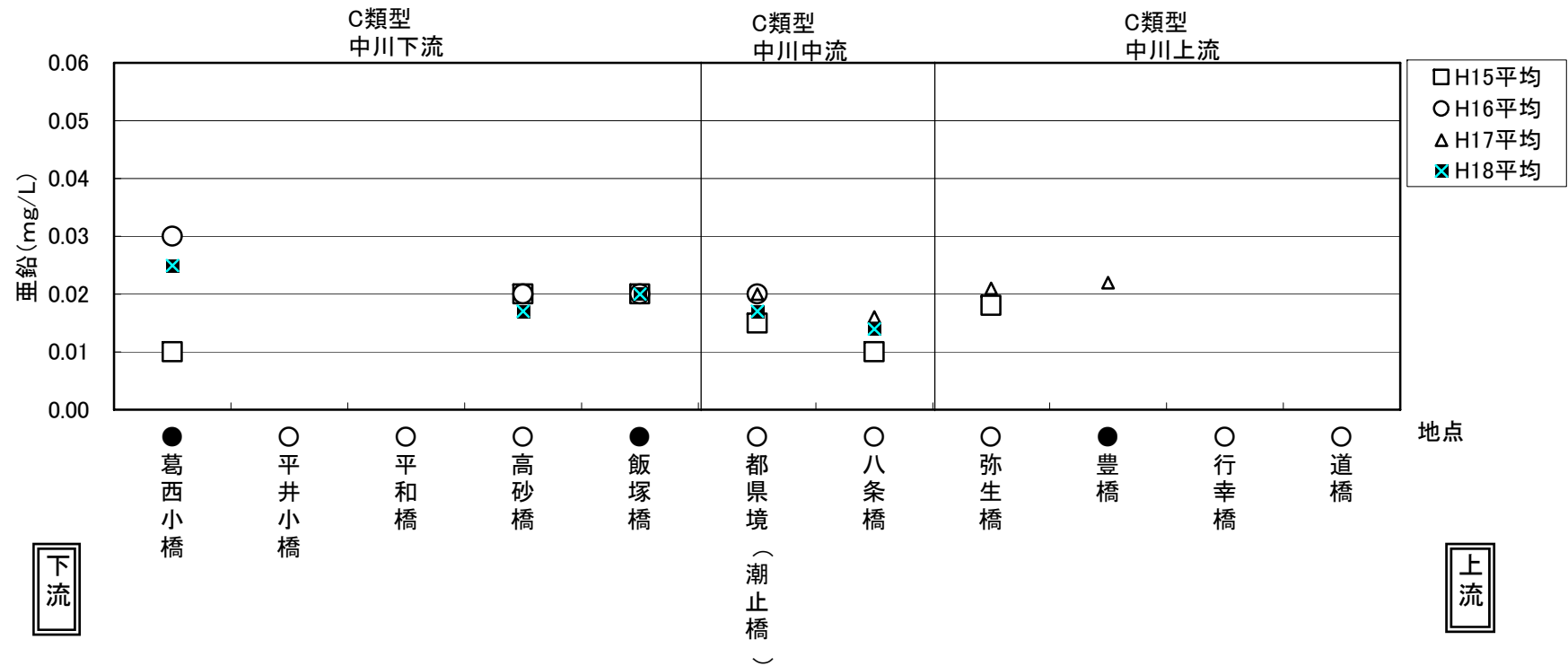
図4.3 pHの水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

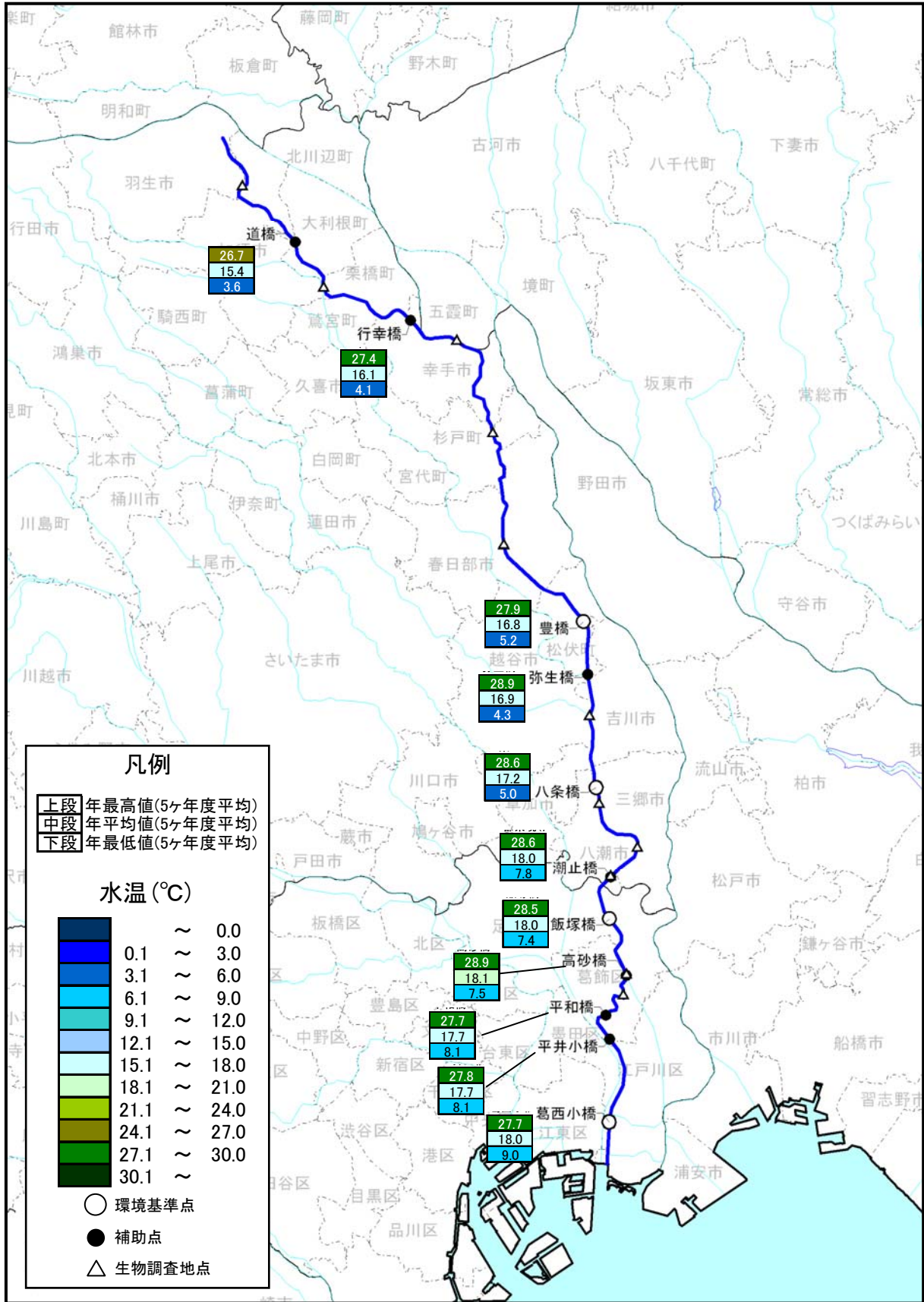
図 4. 4 DO の水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)
 ※年度平均値が<0.01、<0.03(定量下限値未満)の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

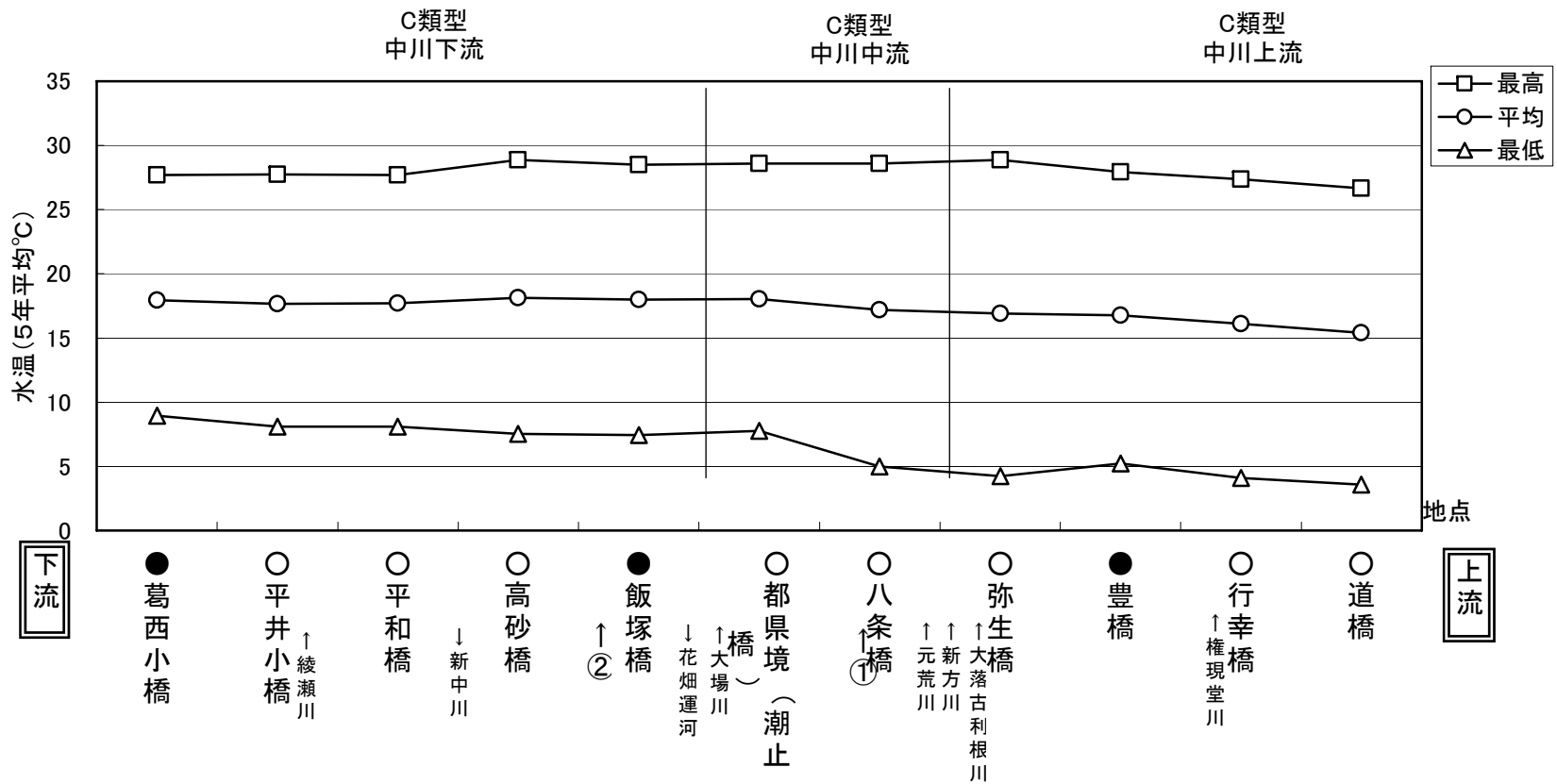
出典：公共用水域の水質測定結果

図4.5 亜鉛の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

図4.6 中川【水温】



No	河川	都道府県	処理場名	放流水質 (H16年平均)		放水量 (m ³ /s)	
				水温 (°C)	BOD (mg/l)	H16年	計画
①	中川	埼玉県	中川処理センター	23.0	6.6	5.21	8.12
②	中川	東京都	中川処理場	-	1.0	2.60	6.83

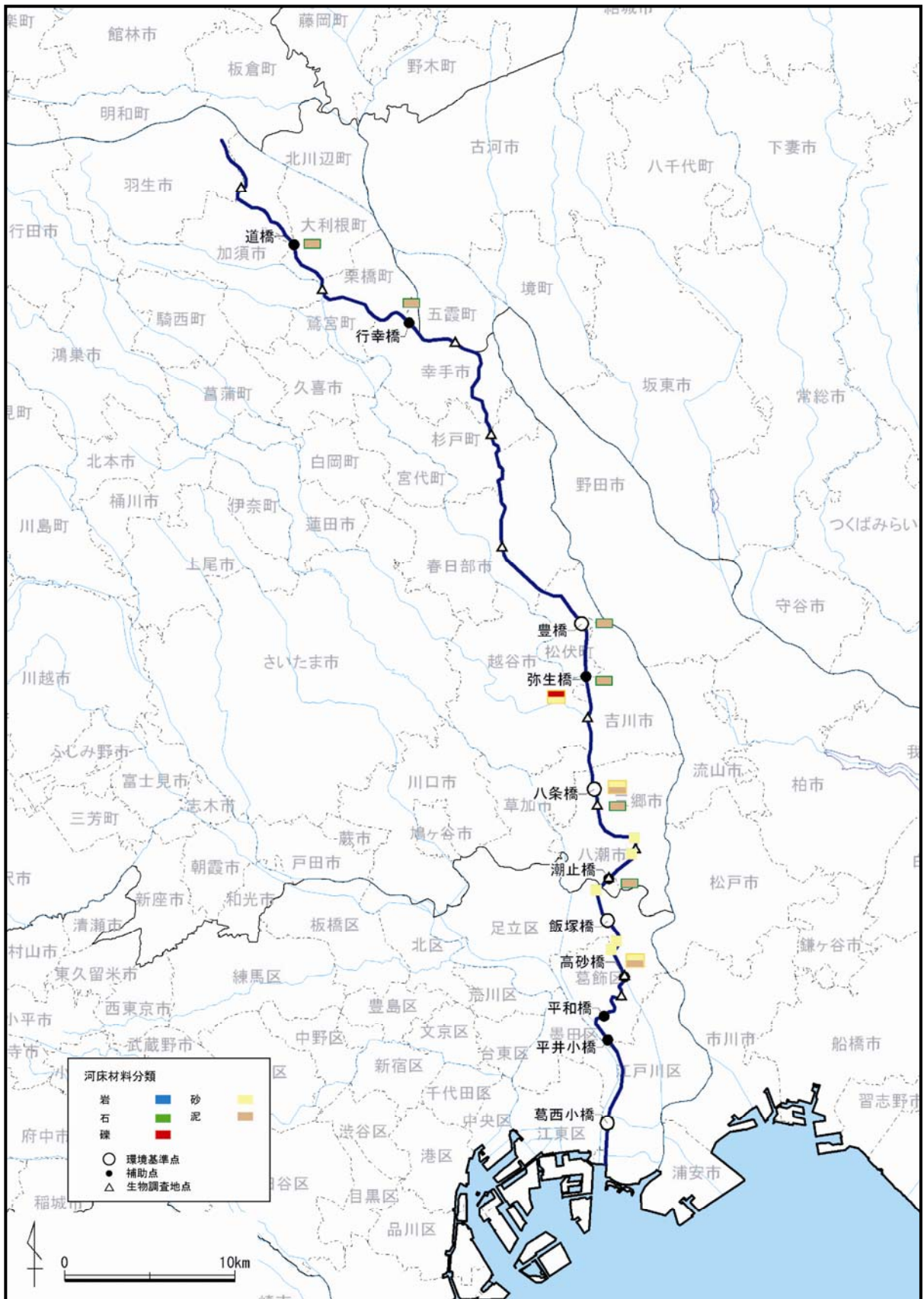
出典：平成16年度版下水道統計(行政編)

※最高・平均・最低は、平成12～16年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において、月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5ヵ年でそれぞれ平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

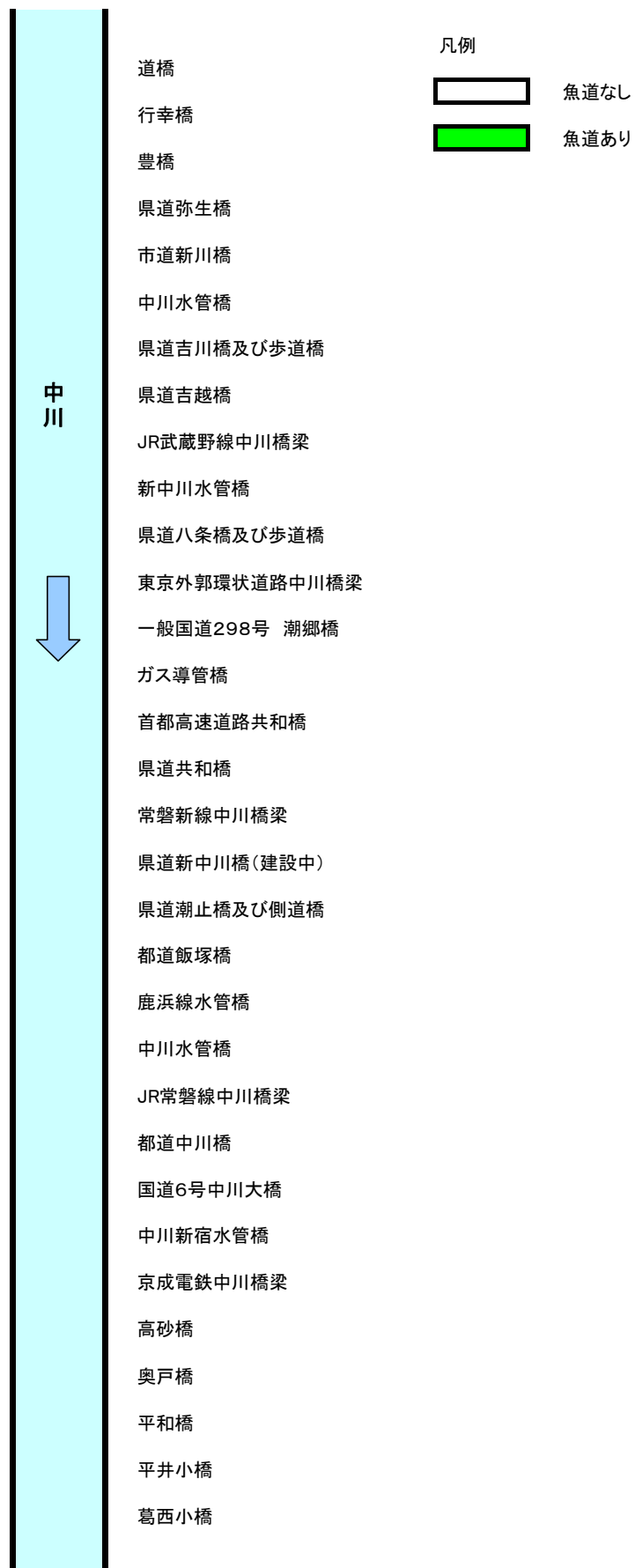
図4.7 水温の水質縦断分布



出典：関東地方建設局「平成12年度 江戸川水系(中川)河川調査報告書」

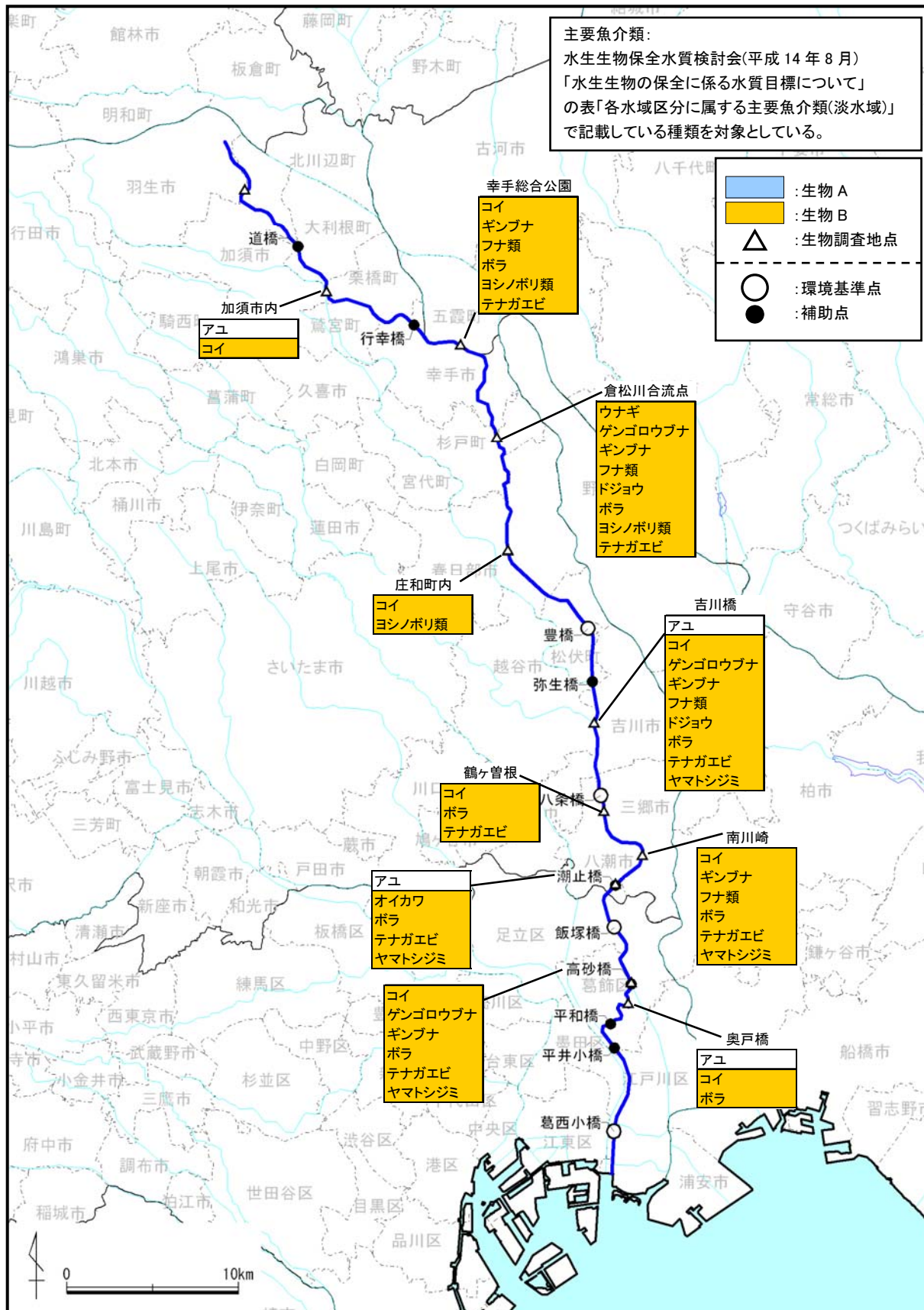
■は、平成14年度「漁協アンケート」、■は平成2・3年度「河川水辺の国勢調査」より

図4.8 中川【河床材料】



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図4.9 主な河川横断工作物



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図4. 10 中川【主要魚介類の確認状況】

表4. 2 中川魚介類の確認状況（既存調査結果）

項目・分類・科・種名	調査地点											
	1 奥戸橋	2 高砂橋	3 潮止橋	4 南川崎	5 鶴ヶ曾根	6 吉川橋	7 庄和町内	8 倉松川合流	9 幸手総合公園	10 加須市内	11 羽生市内	
調査時期	平成15年度 (8-10-3月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成3年度	平成15年度 (8-10月)	平成15年度 (8-10月)	平成3年度	平成3年度	
その他 魚類	キョウリウオ科	アユ										
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ									
		コイ科	コイ	○	○		○	○	○	○	○	
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)		○				○	○		
		コイ科	フナ類(ギンブナ)		○				○	○		
		コイ科	フナ類(Carassius属の数種)			○	○		○	○		
		コイ科	オイカワ			○						
		ドジョウ科	ドジョウ						○			
		ボラ科	ボラ	○	○	○	○			○	○	
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)							○	○	
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種						○			
		テナガエビ科	テナガエビ		○	○	○	○		○		
		シジミ科	ヤマシジミ		○	○	○					
		その他 魚類	ニシン科	サツバ	○							
		コノシロ科	コノシロ	○								
		コイ科	タイリクバラタナゴ			○			○		○	
		コイ科	ハクレン	○		○	○					
		コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種		○							
		コイ科	モツゴ			○	○	○	○	○	○	
		コイ科	タモロコ						○	○	○	
		コイ科	ツツヅキ						○	○	○	
コイ科	ニゴイ							○	○			
コイ科	スゴモロコ							○	○			
カダヤシ科	カダヤシ			○								
シマイサキ科	シマイサキ			○								
スズキ科	スズキ	○	○	○	○	○		○				
サンフィッシュ科	ブルーギル						○		○			
サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)				○	○			○			
ヒイラギ科	ヒイラギ	○	○									
ハゼ科	マハゼ	○	○	○	○	○		○				
ハゼ科	シモジマハゼ	○										
ハゼ科	スマチチブ								○			
ハゼ科	チチブ(Tridentiger)属の一種	○										
ハゼ科	ジュズカケハゼ								○			
ハゼ科	ハゼ科の一種	○										
甲殻類	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				○	○		○			
	イワガニ科	クロベンケイガニ		○	○	○	○					
	イワガニ科	ヒメモクスガニ										
	イワガニ科	ベンケイガニ		○	○	○						
	タニシ科	ヒメタニシ		○								
	ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ				○						
	ムシロガイ科(ナリユコハイ科)	アラムシロガイ						○				
	サカマキガイ科	サカマキガイ			○	○						
	イガイ科	ムラサキイガイ		○								

※分類体系は山根カヲ一編日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典: 調査機関・名称・年度
 国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(5・10月)調査
 東京都、隅田川他8河川水辺の国勢調査(魚介類)利根川水系、平成15年度(8・10・3月)調査
 埼玉県、河川水辺の国勢調査、平成15年度(8・10月)調査
 埼玉県水産試験場、埼玉県の生息魚類の分布について、平成3年度データ

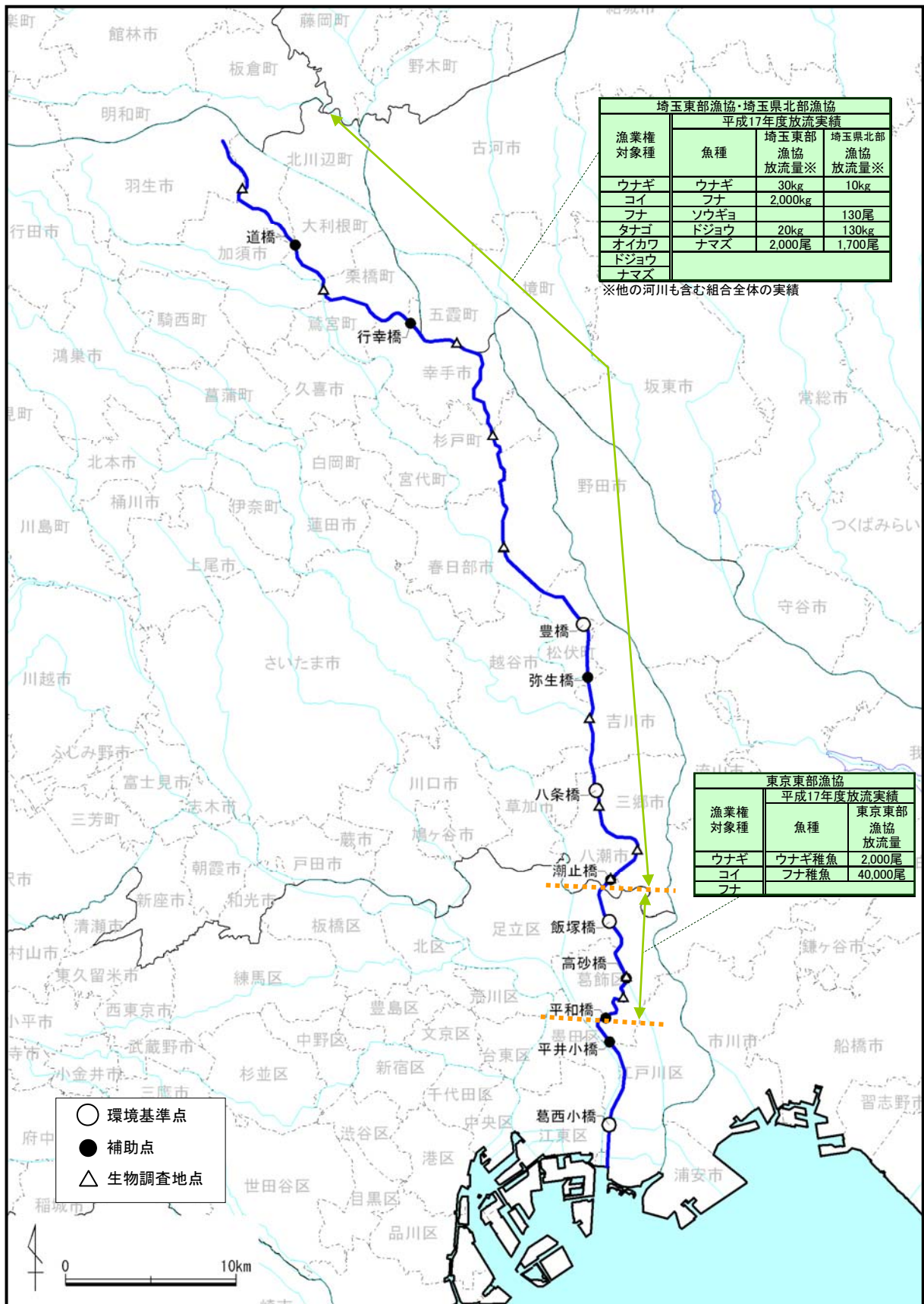


図4. 11 中川【漁業権設定・魚類等放流状況】

表4. 3 中川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、ハゼ、モツゴ、タナゴ、ドジョウ、ナマズ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、ハゼ、モツゴ、タナゴ、ドジョウ、ナマズ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてコイ、フナ類、アユ、ウナギ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。
産卵場・仔稚魚の成育場	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場所は年々河川も変化するので把握困難であるが、主にコイ・フナ類は中下流域の抽水植物帯で産卵する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場所は年々河川も変化するので把握困難であるが、主にコイ・フナ類は中下流域の抽水植物帯で産卵する。 	/
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> コイ、ナマズを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ、フナ類、ウナギ、ナマズ、及びイシガイ科の二枚貝を放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> フナ類、ウナギを放流している。
河川環境に関する情報	/	/	<ul style="list-style-type: none"> 河床材料は砂及び泥であり、最近では砂が多くなってきている。

※埼玉県農林総合研究センター、東京都環境局、埼玉東部漁協、東京東部漁協への平成 17,19 年度ヒアリング